

上方移動・体位交換における スライディングシートの有効性について

5 階北病棟

鈴木 江美 安永 光里 浦上 慶子 中尾奈留美
中野志恵子 小田 和子

はじめに

高齢社会の進行・医療の発展に伴い、病院・在宅を問わず、要介護の高齢者が増加している。当病院の入院患者を日常生活自立度 A1～C2 に分けて集計したところ、B1～C2 の患者が病院全体の 34% をしめている中、5 階北病棟は 56% と半数以上の割合を占めている。このように要介護の患者が多く、十分なスタッフの確保ができていない。通常は 2 名で行なう排泄ケアや体位交換を他患者の急変やナースコールの対応等でスタッフ 1 名で行なっている状況にある。そのため、5 階北病棟では腰痛を訴えコールセットを着用したり、治療を受けているスタッフが多くいる。

そこで、看護・介護業務の中でどのような時に一番腰痛を感じるかアンケートをとったところ、体位交換時・上方移動時に腰痛を感じ、負担になっている事が分かった。

最近では海外・日本でも人力だけに頼らない働き方を可能にするために、積極的なリフト、スライディングボード、スライディングシートなど補助具の活用がすすめられている。

そのため私たちは、患者の上方移動・体位交換動作による腰痛の負担軽減に着目し、低コスト且つ使用し易いスライディングシートを導入した。実際にスライディングシートを活用したところ、動作的負担軽減につながった。今回使用したスライディングシートの有効性についての結果・考察と今後の課題について報告する。

目的

スライディングシートを使用することで、臨床での利点・欠点を明らかにし、上方移動動作・体位交換時のスタッフの動作的負担の軽減を図る。

研究方法

対象：5 階北病棟スタッフ（看護師：18 名 看護助手：3 名 ヘルパー：3 名）

研究期間：H25.5 月～H26. 1 月

方法：スライディングシート導入前後のアンケート調査を行う。

スライディングシートの使用方法を指導し実際に使用してもらう。

倫理的配慮

アンケートでは無記名とし、個人が確定されないように配慮し、収集後破棄する。

また、調査協力は任意とし、協力を拒否する場合でも不利益をこうむることはないと説明する。

結果

スライディングシート導入前のアンケートでは、スライディングシートの認知度が 31% であった。その中で使用経験のある者はいなかった。次に、スライディングシート導入後のアンケートでは、24 名中未使用が 3 名、1～5 回が 10 名、6～10 回が 7 名、11～15 回が 1 名、20 回以上が 3 名という結果だった。利点として使用手順は簡単で腰痛の増強はなく動作的負担の軽減につながったという意見が多かった。一方、実際に使用してみると手技が難しいという意見もあった。また、取りに行くのが面倒・患者に入れ込むのが面倒・片づけが面倒などの意見もあり、使用せずに一人で体位交換する人や、スタッフ同士でする方が楽という意見もあった。設置場所については、オムツカートや病室の入口などにおいていたが、もっと目のつきやすい所においてほしかったという意見もあった。また枚数が 4 枚と少なく、枚数を増やしてほしいという意見もあった。

考察

実際にスライディングシートを使用して、腰痛の増強なく動作的負担軽減につながっているにも関わらず、あまり使用率アップにつながらなかった。原因として二人で行なう方が早く済むなどの意見があったため、仕事の効率を重視した結果だと考えられる。

今後、スライディングシートを継続して活用していくにはスライディングシートを取りに行くのが面倒などの意見があったため、スライディングシート設置場所として患者のベッドサイドにかけておくなどの工夫が必要であると考えられる。また、する側の負

担軽減だけでなく、今後はされる側の意見も取り入れ、患者の安楽に対しても考える必要がある。さらにより良い補助具の活用ができるよう感染面にも着目し検討していく必要がある。

おわりに

実際にスライディングシートを使用してみて、人力だけに頼らず補助具を使用することは、必要であると感じた。今後、さらに高齢社会が進行していく中、補助具を活用しスタッフの動作的負担軽減を図ることは必須となってくるだろう。そのため、今回使用したスライディングシートなどの補助具を継続

的に活用していくことで、動作的負担軽減が期待できる。

参考文献

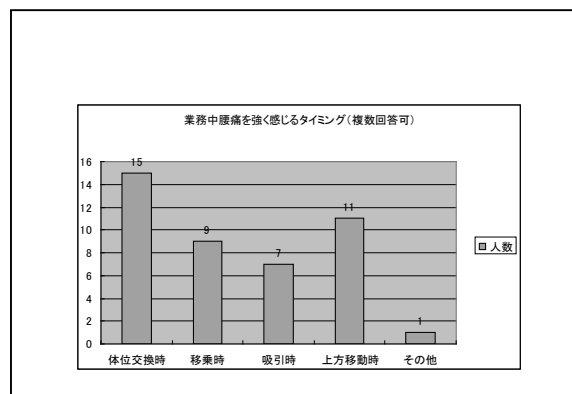
株式会社モリトー移座えもんシート使用手順
H24 年度五島中央病院 褥瘡発生状況
H25 診療業務実績

上方移動・体位交換におけるスライディングシートの有効性について

五島中央病院5階北病棟
鈴木江美 安永光里 浦上慶子
中尾奈留美 中野志恵子
小田和子

**日常生活自立度表
平成24年度新規入院患者
病棟別B1～C2の割合**

| | 新規入院患者(人) | B1～C2年間平均患者数(人/月) | 平均(B1～C2の患者数÷新規入院患者数) |
|------|-----------|-------------------|-----------------------|
| 5北病棟 | 877 | 31.4 | 58 |
| 5南病棟 | 917 | 22.3 | 29 |
| 4北病棟 | 727 | 13.9 | 22 |
| 4南病棟 | 550 | 23.4 | 51 |
| 3南病棟 | 1024 | 30.1 | 35 |
| 2病棟 | 135 | 1.25 | 11 |



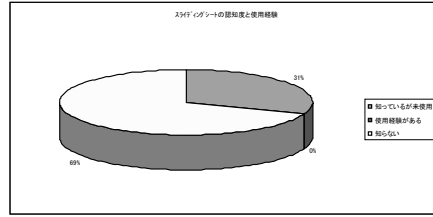
◆ 目的
スライディングシートの利点・欠点を明らかにする
スタッフの動作的負担の軽減を図る

◆ 研究方法
対象: 5階北病棟スタッフ(看護師18名 看護助手3名 ヘルパー3名)
研究期間: 平成25年5月～平成26年1月
方法: スライディングシート導入前後にアンケート調査
スライディングシートの使用方法を事前に指導
9月～10月の期間患者へ使用する

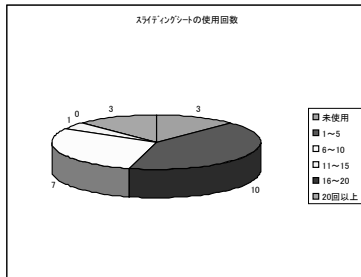
◆ 倫理的配慮
アンケートでは無記名とし、個人が特定されないように配慮し、収集後破棄する。また調査協力は任意とし協力を拒否する場合でも不利益を被ることはないことを説明した

結果

スライディングシート導入前アンケート



スライディングシートの使用回数



結果

<利点>

- ◆ 使用手順は簡単(簡単と感じた人22名、困難と感じた人2名)
- ◆ 腰痛増強がない
- ◆ 看護者自身の負担軽減

結果

<欠点>

- ◆ 手技が難しい
- ◆ 準備・片付けに手間がかかる
- ◆ その他

考察

考察

<使用率アップにつながらなかった原因>

- ◆ 仕事の効率を重視した結果、二人で行う方が早く済むという考えのスタッフがいた
- ◆ 設置場所の問題

おわりに

- ◆ スタッフの身体的な負担軽減を考慮すると人力だけに頼らず補助具を使用することは今後必要となるだろう

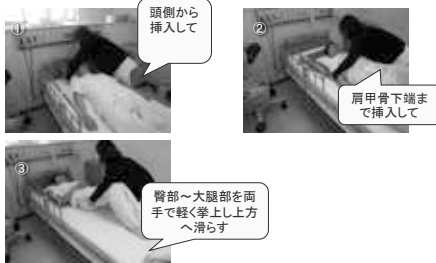
実際にスライディングシートを使用して上方移動を行ってみます。
ご覧ください

結果

◆ 使用したスライディングシート
移座えもんシート
Mサイズ: 75 × 75cm
価格: 2500円(1枚)



スライディングシートの使用風景



スライディングシート使用風景

